

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

～国際感覚を備えた新しい時代のリーダーを育てる学校をめざす～

1. 希望の進路実現に繋がる確かな学力を育む
2. 国際理解教育の推進を図り、自己表現力、コミュニケーション能力を身につけ、グローバル化の進む社会で活躍できる人物を育てる
3. 夢や目標にモチベーション高く向かい、リーダーとなりうる社会人基礎力を備えた人物を育てる

2 中期的目標

1 確かな学力の育成【授業力】

- (1) 新学習指導要領を踏まえ、基本的な学力の定着を礎に、進路実現を保障する確かな学力を育む。また、各教科の実践と検証に則り、教育課程検討委員会、校務分掌検討委員会と共に、28年度より新たに設置する『授業力向上委員会（仮称）』を核として「わかる授業、やる気を引き出す授業」を目標として教員の授業改善に取り組む。
 - ア これまでの授業に加え、ICTの活用を推進し、学習内容の理解度を向上する。
 - イ 各教科で教え方、使用する副教材（ICTの副教材やプリント等）の研究、及び教科毎の情報共有化を図る。
 - ウ 全ての科目の授業で、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を養う。
 - エ 自ら考え、自ら発信する力を醸成するため、各授業で可能な限りアクティブラーニングを導入する。一方向の受動的な授業から脱却し、生徒が能動的に学修する授業になるよう取り組む。そのことにより、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。（授業中に既習事項確認の発話（ディスカッション）の時間を設ける等）
 - ※ 学校教育自己診断「授業はわかりやすい」の肯定的回答を平成27年度の49%を、平成30年度55%となることを目標とする
 - ※ 授業アンケート「授業内容に、興味・関心をもつことができた」の肯定的回答平成27年度71.8%、「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている」についての肯定的回答平成27年度74.8%を平成30年度80%となることを目標とする。
 - ※ 英語検定準2級以上の合格者合計、平成27年度90名を平成30年度120名を目標とする。
 - オ 講習全般を見直し、必要な講習時間数を割り出す。教員の所属学年を超えて講習にあたる体制作りを通して講習の充実と学力の伸長を図る。
 - カ 進路指導部・学年・教科で密に連携し、年間計画に基づいた綿密な学習指導、進路指導を行い、進路実現を図る。
 - ※ 国公立大学現役合格者数平成27年度1名を、平成30年度には7名を目標とする。
 - ※ 難関私立大学（関関同立・産近甲龍・関西/京都外大）の現役の合格者数平成27年度231名を、平成30年度には250名を目標とする。

2 キャリア教育に基づく自己実現の支援【自立・自己実現の支援】

- (1) 自立した基本的生活習慣を確立する。挨拶等の社会人としてのマナーや常識について伝え、規範意識や協調性を培い、遅刻や欠席を減らす。
 - ア マナーや常識、規範意識や協調性の大切さについて常に意識する。
 - イ 社会や学校のルールを守り、自発的に自分を律することができる「自主自律（校訓）」の精神を醸成する。
 - ウ 生活指導部・学年等で密に連携し、基本的生活習慣、校則の遵守などの生活指導を綿密かつ丁寧に行う。
 - ※ 頭髪、服装、遅刻指導を徹底する。遅刻について平成27年度1305件を、平成30年度1200件に減ずることを目標とする。
- (2) 総合的な学習の時間やHRを活用し、生徒の生きる力の醸成を図る。
- (3) 学校行事、国際関連行事、語学研修や部活動を通し、成功体験、失敗体験から「達成」と「克服」を経験し、社会人基礎力「前に踏み出す力」「チームで働く力」「考え抜く力」を養成する。また、生徒が夢や志を持って自身の可能性を伸ばし、よりよく社会に参画する態度を育む。
 - ア 集団活動に積極的に取り組む機会と環境を提供し、自他の違いを認め、協調し、「協調友愛（校訓）」の精神を培い、他者と望ましい人間関係を構築できる国際人となりうる人間性を育む。
 - イ 普通科、国際教養科の隔たりなく、国際感覚を醸成すべく、校内国際交流、海外語学研修や留学生受け入れ等に取り組むことを推奨する。
 - ※ 部活動加入率（3学年平均）、平成27年度62.9%を平成30年度には70%に伸ばすことを目標とする。

3 学校の特色づくりと組織力の向上【学校運営】

- (1) 授業等の学習、学校行事、部活動などの教育活動に関する教職員の共通理解を深め、気持ちを一つにして「よりよい旭」に向けてチームワークを育み、目標を持って邁進できる組織を構築する。
 - ア 運営会議、職員会議などの充実を図り、よりよい校務分担体制を確立する。更に、平成28年度より新たに総合的な学習の時間のシラバス作成、授業改善と教員研修を主導する授業力向上委員会（仮称）と修学旅行委員会を設置し、学校運営の円滑化に注力する。
 - イ 前年踏襲ではなく、教職員が常に「改善」の意識を持ち、PDCAによる学校改革、授業改善に更に一丸となって取り組むよう努める。
- (2) 校務の効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保する。⇒ICT機器整備と活用促進を図り、授業改善、校務の効率化に繋げる。
 - ア 教職員間メールや掲示板の活用を推奨し、分掌の校務や教科準備など事務的作業の簡略化、授業準備の効率化を図る方法を教員主体で構築する。また、経費削減の意識を持って教職員間の使用ペーパーの削減をめざす。
- (3) 学校の特色の共通認識と広報活動の充実を図る。
 - ア HPを更に充実させ、クラブ等の地域行事参加、教員による中学校訪問、学校説明会やオープンスクール等の広報活動の充実を図る。
 - ※ 学力検査の応募状況、合格者分布等を精査し、積極的に学校説明会に参加する。また校内でオープンスクールを年3回開催する。合計1800名程の中学生、保護者の来校を目標とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>□肯定的回答（よくあてはまる、ややあてはまる）の割合 今年%（昨年%）</p> <p>●確かな学力の育成</p> <p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業はわかりやすい。47.7%（49.0%） ・授業で分からないことについて先生に質問しやすい。55.2%（51.5%） <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供は授業が分かりやすく興味深いと言っている。38.2%（36.4%） <p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材の精選・工夫を行っている。92.5%（93.1%） ・学習指導の方法や内容について工夫している。87.5%（93.1%） <p>【分析】</p> <p>生徒・保護者の回答から「授業がわかりやすい」の割合が低いことがわかり、学校として真摯に受け止め、課題として取り組んでいく必要がある。一方、生徒には「わかりやすい」が「理解できた」と同等になりテスト等の結果に必ずしもつながっていないことからわかりやすいと保護者に伝えられない面があると保護者の方からご意見をいただいた。</p> <p>別途実施の授業アンケートでは 74%以上の生徒より、授業に興味関心を持ち、知識や技能が身についたと感じているという肯定的な評価があった。また、92%を超える教員が、教材の精選・工夫や学習指導の方法や内容について工夫していると回答している。これらについて、生徒、保護者、教職員の間で意見に相違があるので検討していきたい。</p> <p>●学校生活全般</p> <p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校に行くのが楽しい。74.5%（75.5%） ・将来の進路や生き方について考える機会がある 74.7%（75.1%） ・先生はいじめ等困っていることに真剣に対応してくれる。52.3%（48.8%） ・担任の先生以外にも、気軽に相談することができる先生がいる。56.8%（53.5%） <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもは学校に行くのを楽しみにしている。78.8%（81.1%） ・将来の進路や生き方について適切な指導を行っている。64.9%（63.2%） ・学校の生徒指導の方針に共感できる。67.1%（66.9%） <p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員は生徒の意見をよく聞いている。77.5%（70.2%） ・生徒の問題行動が起こったとき組織的に対応できる。70.0%（82.8%） ・生徒はクラス担任以外の教職員とも相談できる。62.5%（78.9%） <p>【分析】</p> <p>「学校に行くのが楽しい」「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」は生徒、保護者ともに微減している。「将来の進路や生き方について考える機会がある」と答えた生徒は微減だが、「将来の進路や生き方について適切な指導を行っている」は微増しており、今回は昨年と同程度と考える。生徒相談に関する「先生はいじめ等困っていることに真剣に対応してくれる」「担任の先生以外にも、気軽に相談することができる先生がいる」では肯定の回答が増えているが、もっと肯定的回答を増やしたい。一方で教員は一義的に担任が対応すると感じているために昨年より 12.8 ポイントも下がっている。この点は教員が協力し合い組織的に対応する実感を持てるように進めていく必要がある。</p> <p>●学校経営・施設整備全般</p> <p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室等は授業や生活がしやすいように整備されている。57.2%（58.2%） ・将来の進路や生き方について考える機会がある。74.7%（75.1%） ・学校からの諸連絡を保護者に漏らさず伝えている。62.3%（58.2%） <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の施設・設備は学習環境面でほぼ満足できる。48.4%（50.3%） ・将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。64.9%（63.2%） ・子どもは学校からの諸連絡を漏らさず伝えている。58.4%（59.5%） <p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営に教職員の意見が反映されている。50.0%（51.7%） ・分掌や学年間の連携が円滑に行われている。27.5%（50.0%） ・教育活動について生徒・保護者への周知に努めている 65.0%（74.1%） ・生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう指導を行っている。82.5%（91.4%） <p>【分析】</p> <p>今年度、創立 65 年を迎えて、施設設備の老朽化とともに教室が狭い、トイレ環境が悪いなど生徒、保護者ともに改善の要望が強く、保護者にその思いが強い。その要望からはもっと低くなると想定された。</p> <p>将来の進路等への指導については、生徒より保護者が下回っており、学校の取り組みが保護者に伝わっていないことも考えられる。学校からの諸連絡を伝えることをしっかり行っていかなければならない。また、教員は 82%を超えて肯定的な回答をしているが、昨年度より下がっている。今年度の学校経営の取り組みの中で、様々な対応があったがそれらの解決にあたり、分掌や学年が個別にあたるケースが多かったために、連携する姿が見えなかった。このような点を感じ、「分掌や学年間の連携が円滑に行われている」の項目において、肯定的回答が大幅に下がったと考えられる。</p>	<p>●第 1 回（6 月 15 日）「旭高校の魅力づくりに向けて」（協議）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 校長挨拶 (2) 委員自己紹介、事務局員自己紹介 (3) 今年度の学校経営目標と現状報告(校長) (4) 各分掌の取組み <ol style="list-style-type: none"> ①進路指導部 ②生活指導部 ③図書教養部 ④情報部 (5) 協議(主な提言等) <ul style="list-style-type: none"> ◇生活指導については、以前から頭髪、化粧、スカートのサイズ変更などの違反について細かいところまで継続的に粘り強く指導をしていただいていた。これからも継続してご指導ください。 ◇自習室については、校内で対応していただいている点については助かっている。これからもよろしくお願いします。 ◇進路指導の取組みについては、希望する進路を実現するためには安易な選択をせず最後まで頑張ることが大切だというご指導を続けてもらいたい。高校の名前よりも、そこでどれだけ頑張ったかが大学入学後に反映されてくると感じる。 (6) 校長謝辞 <p>●第 2 回（10 月 19 日）「旭高校の魅力づくりに向けて」（協議）</p> <ol style="list-style-type: none"> (0) 校内施設見学 (1) 校長挨拶 (2) 委員近況報告 (3) 中学校訪問および新たな取り組みについて報告(首席) (4) 各分掌から報告 <ol style="list-style-type: none"> ①進路指導部 ②図書教養部 ③情報部 (5) 協議(主な提言等) <ul style="list-style-type: none"> ◇イングリッシュ・バスツアーは姉妹校からのゲスト、PTA、教員、ACBF 部員が参加して有意義に過ごされ、ゲストが喜ばれた様子がうかがえた。旭高校の国際交流のよさを垣間見ることができた。 ◇進路指導部の話のなかで、大学見学会、模擬授業などは多様な生徒の希望に応じた講座を準備されているのがわかった。大学を意識した行事があり良いと感じた。 ◇前回の協議会のときにセンターテストの受験者が増えていると聞いていたが、今年の増加数を見ても、先生方のご指導の結果が表れてきていると思われる。 (6) 校長謝辞 <p>●第 3 回（1 月 26 日）「学校経営計画および学校評価について」（提言）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 校長挨拶 (2) 委員近況報告 (3) 学校経営計画および学校評価について(校長) (4) 学校教育自己診断について(教頭、各学年) (5) 広報活動について(首席) (6) 平成 29 年度教科書選定について(教務) (7) 平成 29 年度入学制教育課程について(教務) (8) 協議(学校評価および提言) <ul style="list-style-type: none"> ◇多彩な進路行事を実施されていて、生徒の進路選択に役立っていると思われる。また国際交流をはじめ、生徒は学校生活で主体的に活動しており、先生方がその土台を作られている。引き続きそのような取組みをお願いしたい。 ◇国際教養科だけでなく普通科でも国際交流を行う場面が多々あるのが旭高校の特色の一つであるまた、様々な学校の活動は地域でも評価されていると感じられた。 ◇進路指導の成果は着実にできていると考えられる。旭高校の取組みが周囲にも伝わっていて、組織力の向上にも通じるような取組みがなされていると感じる。キャリア教育に関しても、進路指導に関しても、生徒の主体性が確保されていると感じる。アンケートに関しては数値だけを気にする必要もないと思うが、改善の意義はあると考える。遅刻指導の向上なども期待している。 (9) 校長謝辞

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">確かな学力の育成【授業力】</p>	<p>(1) 基本的な学力の定着を礎に、進路実現を保障する確かな学力を育むとともに、「わかる授業、やる気を引き出す授業」を目標として、教員の授業力の向上に取り組む。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ICTの活用を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTを活用して授業力の向上を推進するために、授業力向上委員会（仮称）を中心に、活用研修を実施し、授業、クラス活動での活用率を高める。 <p>イ 副教材の研究、及び教科毎の情報の共有化を図る。</p> <p>ウ 授業で、プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を養う。</p> <p>エ アクティブラーニングの導入により、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> アクティブ・ラーニングには発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効な方法であるので取り入れる。 平成27年度の授業アンケートを教科毎にまとめ、改善が必要な教員の授業見学を複数回実施し、授業改善を図る。 <p>オ 講習の体制作りを通して内容の充実と学力の伸長を図る。</p> <p>カ 各部署が連携し、年間計画に基づいた学習指導、進路指導を行い、進路実現を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 講習、補習などの実施状況と受講状況を把握し、効果の実証と改善を行う。 講習を充実させ、学習の機会を増やす。本校生は自宅学習時間が少ないので、自宅学習の充実を図るために、自習室の設定等を模索する。 センター試験、英語検定試験受験を推奨し、両試験の受験人数、並びに英語検定では準2級以上の合格者数を増やす。 各教員の授業力の向上と相談体制の確立を図る。 学校教育自己診断等の結果を踏まえ、年間実践の振り返りと課題探索を行う。 	<p>□学校教育自己診断の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業はわかりやすい」についての肯定的回答、平成27年度の49%を51%以上にする。 <p>□授業アンケートの結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業内容に、興味・関心をもつことができた」についての肯定的回答、平成27年71.8%を74%以上にする。 「授業を受け、知識や技能が身についたと感じている」についての肯定的回答、平成27年度74.8%を76%以上にする。 <p>□取り組みから</p> <ul style="list-style-type: none"> 英検準2級以上合格者数 英検準2級以上合格者数合計、平成27年度90名を100名にする。 センター試験受験者数 センター試験受験者、平成27年度62名が70名になることを目標とする。 国公立大学現役合格者数 国公立大学現役合格者、平成27年度1名を3名になることを目標とする。 難関私立大学合格者数 難関私立大学（関関同立・産近甲龍・関西/京都外大）合格者、平成27年度231名を238名以上にすることを目標とする。 語学関係行事 <ul style="list-style-type: none"> 夏休みの英国語学研修の事前研修を充実させ、実施する。 オーストラリアからの語学研修の受け入れを充実させ、実施する。 留学生の受け入れを積極的に行う。 語学力を高めるため、語学系の暗唱大会やインターナショナルフェスティバル等への参加を推奨する。 <p>●補習・講習 各種講習を充実させ、学習の機会を増やす。</p> <p>●特別授業 生徒の教養を高め、視野を広げることができるような有意義な特別授業を実施する。</p>	<p>□学校教育自己診断の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業はわかりやすい」についての肯定的回答 47.7% (△) <p>□授業アンケートの結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業内容に、興味・関心をもつことができた」についての肯定的回答 74.3% (○) 「授業を受け、知識や技能が身についたと感じている」についての肯定的回答 77.5% (○) <p>□取り組みから</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回英検準2級以上合格40名 第3回英検準2級以上合格69名 計109名 (◎) ※準1級合格者1名を含む センター試験出願者102名 (◎) 国公立大学現役合格者数 5名 (◎) 難関私立大学現役合格者数 249名 (◎) <p>●語学研修 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 英国研修に24名が参加した。日本紹介の指導に力を入れ、生徒たちはパワーポイントを用いてわかりやすくプレゼンテーションを行い、大好評であった。 オーストラリア姉妹校より生徒13名、教員2名が9月に来校、本校生徒の家庭でホームステイを体験した。この間の京都へのイングリッシュ・バスツアーには52名が参加した。 長期：エストニアから女子1名、タイから男子1名、ドイツから男子1名、アメリカから男子1名、短期：オランダから男子1名受け入れた。 インターナショナルフェスティバルへは1年校内レシテーション大会の優勝者、2年校内スピーチ大会の優勝者、2年第二外国語暗唱大会、6言語（ペア）それぞれの優勝者合計14名が参加。 <p>●補習・講習 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 3学年を中心に講習を実施。 大阪大学との連携 大学生による放課後学習支援 <p>●特別授業の一例 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 主権者教育（模擬投票、模擬請願の取組み） 模擬請願から実際に請願を行った。 即興型英語ディベート 短時間に論点をまとめ、議論する。2回実施。 英語落語 英語で何を伝えるのか、日本文化への理解

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
キャリア教育に基づく自己実現の支援【自立・自己実現の支援】	(1) 自立した基本的な生活習慣を確立する。 (2) 生徒の「生きる力」の醸成を図る。 (3) 「達成」と「克服」を経験し、社会人基礎力を養成する。また、生徒がよりよく社会に参画する態度を育む。	(1) ア マナーや常識、規範意識や協調性の大切さについて常に意識する。 イ 社会や学校のルールを守り、自発的に自分を律することのできる「自主自律（校訓）」の精神を醸成する。 ウ 生活指導部、学年等で密に連携し、基本的な生活習慣、校則の遵守などの生活指導を綿密かつ丁寧に行う。 ・指導方針の明確化を図り、全教職員一致して実践する。 ・遅刻、挨拶、頭髪や服装についてなど、社会人としてのマナーや常識を伝え、規範意識や協調性を培い継続的に指導する。 (2) ・総合的な学習の時間やHRを活用する。 ・SNS対策、薬物乱用防止など、生徒の安心、安全に係る行事、講演会の取り組みを行う。 (3) ア 集団活動に積極的に取り組む機会と環境を提供し、他者と望ましい人間関係を構築できる人間性を育む。 イ 国際感覚を醸成すべく、校内国際交流、海外語学研修や留学生の受け入れ等に取り組む。 ・部活動支援のために全教員による協力体制を強化する。 ・学期毎に各部の活動状況、生徒の様子の把握等に取り組む。 ・体育祭、文化祭等の学校行事の充実、国際理解教育の実践、国際交流の充実に取り組み、英語教育力の向上を図る。	□生活指導関係 ●遅刻者数を減らす ・平成27年度は年間遅刻数（3学年合計）が1305件であったが平成28年度は1260件程度にする。これまで遅刻者数をかなり減少してきた。様々な理由によって起こる遅刻もあるなかで、指導を続け、今後も地道に減らすことを目標とする。 ●生徒指導に関する行事 危機管理の一環としての避難訓練や、生徒の生活指導の一環としてのSNSや薬物の危険性についての講演を実施する。 □行事関係 ●進路指導に関する行事 ・進路指導に関する指導を充実させ、情報提供に留まらず、生徒が希望する進路実現に繋げていく。 ●国際理解教育に関する行事 ・国際交流を推進し、生徒の国際感覚を醸成できる環境を提供する。 ●部活動加入率 ・平成27年度の部活動加入率（3学年平均）62.9%を66%にすることを目標とする。	□生徒指導関係 ●遅刻者数（△） ・平成28年度1876件 単なる不注意ではない遅刻（学校に連絡有り）が増えている。次年度は不注意による遅刻を減らす。 ●生徒指導に関する行事（○） ・情報モラル講演会実施（1年生） 講師：篠原嘉一（情報セキュリティコンサルティング会社代表取締役） ・薬物&交通安全講演会実施（1年生）講師：旭警察署から2名 □行事関係 ●進路指導に関する行事（○） ・校内実施模試 3年5月295名、7月267名、9月238名 2年11月106名、1月330名 1年1月285名 看護医療模試27名（5,9,1月） ・学力診断1年・2年（4,8月） ・実力考査3年（4,8月） ・1日看護師体験13名（8月） ・生徒対象進路説明会 3年（四大、AO、指定校、センター、国公立、就職） 2年（6月進路別、7月学校別33講座） ・OBOG懇談会（6月在校生22名） ・各種奨学金説明会 ・保護者対象説明会2回（5月159名、2月54名） ・講師招聘進学講演会1回（3月） ・1年大学見学会 （10月国公立9キャンパス、事後プレゼン活動） ・2年模擬授業（大学より20講座） ・3年模擬面接（2学期） ・センター試験出願102名 ・学年進路通信、てびき、資料集発行 ・進路希望調査1・2年（2月）3年（5月） ・学校生活アンケート1～3年（5月） ・学年進路連絡会、学力診断分析会 （1年5,10月・2年5,10月・3年4,5,8,9月） ●国際理解教育に関する行事（○） ・1年JICA関西訪問（7月82名。留学生を含む） ・JICA技術研修員7カ国11名来校。（5月）国際理解の授業で2年生80名が交流。昼食時には1～3年希望者約20名が昼食をとりながら交流した。 ・課題研究、国際理解の授業において、「世界から失くしたいもの、残したいもの」、「自国の文化を知り、他国と比較する」、「英語のスピーチを通して世界の問題を調べる」など、国際理解につとめる活動を行った。 ●部活動加入率（○） ・3学年の平均加入率 68.9%

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学校 の 特 色 と 組 織 力 の 向 上 【 学 校 運 営 】	(1) 取り組みの共通理解 (2) ICTの活用 (3) 地域連携	(1) 教育活動に関する教職員の共通理解を深め、気持ちを一つにして「よりよい旭」に向けてチームワークを育み、目標を持って邁進できる組織を構築する。 ア 運営会議、職員会議などの充実を図り、よりよい校務分担体制を確立する。更に、平成 28 年度より新たに総合的な学習の時間のシラバス作成、授業改善と教員研修を主導する授業力向上委員会（仮称）と修学旅行委員会を設置し、学校運営の円滑化に注力する。 イ 前年踏襲ではなく、教職員が常に「改善」の意識を持ち、PDCAによる学校改革、授業改善に更に一丸となって取り組むよう努める。 ・副担任制度の効果的な導入と円滑な運営に注力する。新しく設置した委員会運営の充実を図る。 ・教職員全員が「改善」の意識をもち、PDCAを回せる組織の醸成に取り組む。 ・平成 28 年度の取り組みについての検証。改善点の把握と新しい取り組みの模索をする。	□学校運営：年間を通しての取組み ●教職員研修 平成 28 年度に発足する授業力向上委員会（仮称）において教職員研修を担当し、企画、運営する。今後も研修を充実し、教職員の自分磨きを徹底する。平成 27 年度と同様、7 回程度は実施していく。 ●地域連携 旭区内唯一の公立高校として、地域との関わりや行事に積極的に参画し、連携を深めていく ●広報活動 ・HPの更なる充実を図る。	□学校運営：年間を通しての取組み ●教職員研修（○） ・教員間のメールのやりとり、および掲示板を使用した連絡ができるよう環境を構築。使用マニュアルも作成。 ・不登校生徒への指導研修 3 回の実施 ・教育相談研修 2 月 10 日 ●地域連携（○） ・高殿小学校で行われたわいわい祭りにボランティアとして 70 名の生徒が参加 ・本校にてオープンスクールにあわせて、地域連携として高殿小学校児童対象の理科の実験体験授業の実施。（児童 12 名、保護者 8 名） ●広報活動（○） ・ブログを中心に更新作業を日々行った。オープンスクールの案内など広報活動にも大いに使用。 ・戦略的に中学校訪問を実施し、昨年度よりも訪問校を減らしながら、オープンスクールでの受け入れ中学校数が増加した。参加中学校公立 177 校 私立 9 校。 （昨年公立 143 校私立 10 校） ・本年度オープンスクール参加者は 1885 名 （昨年度 1752 名）
		(2) ア 教職員間メールや掲示板の活用を推奨し、分掌の校務や教科準備など事務的作業の簡略化、授業準備の効率化を図る方法を教員主体で構築する。 また、経費削減の意識を持って教職員間の使用ペーパーの削減をめざす。 (3) ア 広報活動の充実と拡大、地域コミュニティ等や小中学校との連携と貢献、中学校訪問や学校説明会の際に持参する資料の充実、及び学校紹介の仕方の共有を図る。広報活動実施後のまとめや反省を校内で行い、今後に繋げる。	・27 年度合格者の地域分布を精査して中学訪問校数や学校説明会参加数を調整する。 ・オープンスクールは平成 27 年度は 3 回実施し、その来校者は 1786 名であった。 平成 28 年度も 3 回以上実施し、生徒、保護者合計が 1,800 名程度になることを目標とする。	